

## 硫黄島調査特別委員会速記録

平成24年12月7日（金曜日）午前11時開会

### 出席委員（7名）

委員長	一木重夫君	副委員長	片股敬昌君
委員	高橋研史君	委員	鯨江満君
委員	杉田一男君	委員	池田望君
委員	稲垣勇君		

---

### 委員外出席議員（1名）

議長	佐々木幸美君
----	--------

---

### 出席説明員

村長	森下一男君	副村長	石田和彦君
教育長	伊藤直樹君	総務課長	江尻康弘君
総務課副参事	鈴木敏之君	財政課長	今野満君
村民課長	斎藤実君	村民課副参事	村井達人君
医療課長	樋口博君	産業観光課長	渋谷正昭君
自然管理員 専門委員	岩本誠君	建設水道課長	増山一清君
建設水道課 副参事	篠田千鶴男君	母島支所長	箭内浩彌君
出納課長	菊池元弘君	教育課長	佐々木英樹君

---

### 事務局職員出席者

事務局長	セーボレー孝君	書記	菊池ひろみ君
------	---------	----	--------

## 議事日程

- 日程第1 NLP（日米再編）について（経過説明等）
- 日程第2 遺骨帰還について（経過説明等）
- 日程第3 その他
- 日程第4 閉会中の継続調査について

---

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから硫黄島調査特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前11時）

---

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

---

◎NLP（日米再編）について

○委員長（一木重夫君） それでは本日の議題に入ります。

日程第1、NLP並びに日米再編についてを議題といたします。

このことについて、執行部から報告説明を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 前委員会、9月13日以降でございますけれども、NLPを含むFCLP訓練等につきましては実績がございません。

以上でございます。

○委員長（一木重夫君） この件について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

（挙手する者なし）

○委員長（一木重夫君） ございませんか。

質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

---

◎遺骨帰還について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第2、遺骨帰還についてを議題といたします。

このことについて、執行部から報告説明を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） それではご報告いたします。

遺骨帰還事業についての経過でございます。

最初に、開削調査の立ち会いでございますけれども、第4回が10月11日から25日にかけて、

小笠原村在住硫黄島旧島民の会より 1 名参加をしております。

期間が、若干異なった形での参加となっております。

次に、第 5 回でございますけれども、昨日、12 月 6 日から 12 月 14 日にかけて、こちらのほうは現在実施中でございます。

こちらにつきましても、旧島民の会より 1 名が参加中でございます。

次回以降、立ち会いの予定につきましては、現在未定でございます。

次に、遺骨収容の実施でございます。

まず、通常派遣につきましては、第 3 回が 10 月 16 日から 10 月 31 日にかけて、収容柱数については 3 柱ございました。

第 4 回につきましては、10 月 30 日から 11 月 14 日にかけて、収容柱数は 7 柱ございました。

第 5 回、11 月 13 日から 11 月 28 日にかけて、こちらで収容柱数が 23 柱ございました。

通常派遣にかかる年度の累計は 61 柱でございます。

第 6 回につきましては、11 月 27 日から 12 月 14 日にかけて実施中でございます。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会は、3 回から 6 回につきましては不参加でございます。

その後、この後ですね、年明けから 4 回、この通常派遣が予定されてございます。

この 4 回のうちに、できましたら 1 回か 2 回、参加できるよう調整をしているところでございます。

次のページをお開きください。

特別派遣でございます。

第 3 回が、10 月 2 日から 10 日にかけて実施されました。収容柱数が 3 柱、特別派遣における年度累計が 149 柱でございます。

この第 3 回の特別派遣につきましては、村及び硫黄島旧島民の会より 9 名が参加しております。

第 4 回につきましては、来年 2 月 5 日から 2 月 14 日にかけて実施予定でございます。

遺骨の引き渡し時期につきましては、2 月 14 日に予定をされております。

遺骨帰還につきましてのご報告は以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告説明について、質疑、意見のある委員は挙手をお願いいたします。

（挙手する者なし）

○委員長（一木重夫君） ございませんか。

それでは、質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

---

◎その他

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第3、その他事項として、執行部から報告説明を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） それでは、その他事項の説明をさせていただきます。

最初に、硫黄島のエアクッション艇、LCACの訓練につきましてですが、10月28日から11月2日にかけて実施をされております。

また、来週12月12日から14日にかけて実施予定でございます。

次に、硫黄島旧島民平和祈念公園管理事業についてのご報告をさせていただきます。

今年度、第2回の公園管理事業が、10月12日から15日にかけて実施をされております。村及び旧島民の会より4名の参加がありました。

次に、第3回を、11月26日から28日にかけて実施をしております。村及び旧島民の会より5名が参加して実施をいたしました。

次に、硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参につきまして、こちらは東京都の主催でございます。平成24年10月17日から18日にかけて、40名の参加をもって実施をされております。小笠原村及び旧島民の会より、6名が現地より参加をしております。

次に、特定防衛施設周辺整備調整交付金交付額の決定についてでございます。

こちらの交付金につきましては、平成23年度に、硫黄島飛行場施設が特定防衛施設として指定されたことに伴い交付されることになったものでございます。

今年度、平成24年度の交付金額は4,610万円、昨年、平成23年度と比較いたしますと26万8,000円の増額となっております。

次のページをお開きください。

基地交付金調整交付金交付額の決定でございます。

次のページに、これまでの基地交付金等の推移を資料として添付してございます。

基地交付金の今年度の交付額は8,745万1,000円、昨年度と比較いたしますと969万8,000円

のマイナスでございます。また、調整交付金につきましては、今年度交付金額4,451万3,000円、昨年度と比較いたしますと46万7,000円の増でございます。合計1億3,196万4,000円、昨年度と比較いたしますと923万1,000円のマイナスでございます。

減額の理由につきましては、対象資産の評価額が減少したことによるものでございます。

ただ、評価額の減額率に比べまして、交付金額の減額率は少ないという状況になってございます。

説明につきましては以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告説明について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

3番と4番です。硫黄島のエアクッション艇と、あとその他、この2つの部分です。

片股敬昌副委員長。

○副委員長（片股敬昌君） 硫黄島ではさまざまな訓練が毎年されています。もちろん日本防衛のためということもありますが、国際貢献という、埋めた機雷除去訓練とか、そういう訓練、村長たびたび視察に行かれていますと思うのですが、そうした訓練を見ながら、どんな感想を持たれているか、もしございましたら。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私どもの小笠原村は、国の防衛政策に対し、原則的に協力をしていくということは、村議会と同様の形で今まで進んでまいりました。

とはいえ、硫黄島の基地の増大は認めないよという姿勢でもございました。それは、硫黄島旧島民の会の皆様からの、いろいろな心情を配慮してということもございます。

現在、行われておりますエアクッション艇、そしてNLP、それから先ほど掃海艇の訓練ということは、以前、従前からやっております、まずNLPについては、暫定措置ということで、毎年北関東防衛局が島に訪れまして、村、そして村議会、それから在住硫黄島旧島民の会に事業報告をするとともに、毎年更新を、現在では大体しているというところで、暫定ということでやっております。

そして、エアクッションと掃海艇につきましては、今、片股副委員長が言いましたように、掃海艇の機雷の除去の技術というのは、自衛隊が大変優れているということで、国際的にも貢献をしていると、おっしゃるとおり、そのように私も視察に行きまして感じているところでございます。

それから、もう一つエアクッション艇、LCACでございますが、これは、当初と今では

大分私の考え方が違っておりまして、3.11の東日本大震災がありましたときに、ヘリコプターとともにL C A Cは大変活躍をいたしました。つまり、防災にも大変な機動力を発揮するということ。

片股議員も、硫黄島の、墓参で行っておわかりだと思うのですが、あの砂浜の砂地のところが、このL C A Cの訓練には大変適しているところでございます。

したがって、私は、こういう訓練は完熟しませんと、本当に有効に機能をしないと思っていますので、これから何があるか本当にわからない、防災の観点からも、大いに完熟訓練をして、いざというときにお役に立つことができれば、硫黄島に眠る遺骨、御霊も喜んでいただけるのではないかな、このような感想を持っているところでございます。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 総務課長に、聞きますけれども、その他の3番、調整交付金の決定について、平成24年度、4,610万円、そして次ページの調整交付金、平成24年度見ると4,451万3,000円。これは、項目違うの。説明してください。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 最初に、こちらの、(3)番のほうの特定防衛施設周辺整備調整交付金につきましては、ちょっと注意書のところに書いてございますが、特定防衛施設として指定されたものが対象となっただけの交付金ですけれども、次のページは、これは……、別のものということで、お答えでよろしいでしょうか。失礼いたしました。

○委員長（一木重夫君） 池田 望委員。

○委員（池田 望君） では、交付金のことについてつなげて。

最後の方ですが、この2年ぐらい、基地交付金の減額がされていますと。その説明が、評価額が下がってきたから下がってきますよと。これはそうでしょうねと。固定資産税見合いで言うと下がってくるんでしょと。

下がっているけれども、減額率が低くなっているよというのは、それだけ防衛のほうも考えていただいているというふうな説明かと思いますが、これからどんどん固定資産税見合いで言うと下がってくるんですよね。新たな施設ができるとか、そういうことがなければどんどん下がっていきますと。

実際、これはかなわないことですが、あそこが小笠原村として、観光施設として、それから農業やいろいろなことが住民が住むことで産業があれば、このぐらいの金額で見合うかどうかということ考えたときに、本当にそんなことでよろしいでしょうかというふうに

私は思うんですよね。

だから、この評価額で、そうやって言われることについては理解するのですが、もしあそこにみんな帰って産業を興して頑張っていたら、こんな金額ではないよというふうに思うのです。

ですから、このことでよろしいとは、私は思わないので、村長や執行部の方々には、もう少しその辺の国の村に対する思いを表してほしいというふうに言ってもらいたいのですが、どうですか、間違ってますかね。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 間違っていないと思います。そのとおりだと思います。

この基地、従前からいただいております基地交付金と調整交付金の交付については、毎年議長にもご足労を願い総務省のほうにお願いをしているわけでございます。

少なくとも、今、委員がおっしゃったようなことは、私どもとしては発信をしているつもりでございます。

確かに、今年減っているのですが、これが毎年毎年減り続けないような努力はもちろんこれからもしなくてはいけないのですが、他市町村と比較をしてみますと、考えていただいているということもございます。

ですから、我々の発信が決して届いていないわけではないなど。ただ、もっと強く、これからも発信はしていかなければいけないなということが1つと。

先ほど議論に出ました特定のほうの、昨年からということも、それぞれ配慮をいただいていますので、これからも努力を続けながらも、何といても硫黄島の旧島民の皆様、まだ帰れないという状況であるわけですから、ここは我々がこういうところで頑張っているという姿を見せない限り、心情にもこたえられないと思いますので、これからも発信は続けてまいりたいと、このように思います。

○委員長（一木重夫君） 杉田委員。

○委員（杉田一男君） 実は私も、この評価額に関して聞こうと思ったのですけれども、池田委員のほうがあったので。

私はこの評価額の減少について、ちょっと違った考えを持っていまして、あくまでもこれは基地交付金であり調整交付金という。基地交付金で言えば、私は、基地に対する交付金だという解釈をしたいのですよ。

ですから、課税対象額が減ったから交付金が減るという形ではなく、基地として使用して

いる間は、基地交付金ぐらい減らすべきではないと。そして、昔のように、限定された中ではなく、今、全島、小笠原の祈念会館を含め、それを除けば、全島借り上げという形の中で、私は、これを少しずつでも訴えていって、これは当然、防衛省のほうにも、いろいろな考え方があると思いますけれども、やはり、あそこに対して好意を持ってお貸ししている旧島民の方の心情を考えると、折角貸してあげているのに、何で減るのですかと。私は、私たちは、建物を建てたから、それに対しての交付金ではなく、私たちの善意で貸している硫黄島の基地に対して、同じ形でぜひ交付金をくださいよということだと、私は解釈しているんです。

ですから、こうやって改めて評価額が減ったから減らすと、基地交付金を減らすというのは、私は心情的には理解できないところもありますので、やはりその辺をもうちょっと、今、池田委員が言ったのと併用しながら、ぜひ村長にも、今後の交付金獲得の中で、村民の意思もぜひ伝えていただいて、改めて減らないような算段をぜひ考えていただきたいと思います。

それで、もう一つ、お聞きしたいのですけれども、平成20年度は交付金、総額は一気に3,000万円近く増えているのですよね。前年の1億5,200万円から1億5,500……、違う、300万円か。それからがどんどん減少の一途をたどっているのです、これを何とか止めるように、そのためにはどういう理由づけがあるのかということ、ぜひ村長にお考えいただいて、これからは減額がないように、硫黄島の旧島民の善意にこたえられるように、ぜひお願いしたいと。

村長も立場的に、いろいろと言えない部分もあると思いますけれども、その辺を加味しながらぜひ取り組んでいただきたいと思います。

○委員長（一木重夫君） 答弁は。

（「言えるところがあれば」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 今後も努力をさせていただくとともに、これ自体は全体、全国、全体的なものでありますので、固定資産見合いだけではないのですけれども、全体的な部分もありますので、まずこれも頑張ることと同時に、他の形で何かないかということについても研究をしてみたいと思います。

○委員長（一木重夫君） 高橋研史委員。

○委員（高橋研史君） この交付金等は、いわゆる防衛からの地元に対する思いやりのお金で

すね。これは、いただきたい、いただきたいと、皆さんそういう減らないようにしていただきたいというお考えもあるとは思いますが、私個人的な意見を言わせていただきますと、防衛の予算はどんどん減っております。自衛隊の隊員さんの給料も減っている状態です。

そうしますとですね、いわゆる正面装備等の更新とか購入に、かなりこの予算が減ってきているということが影響しております、こういう思いやりの予算が増えると、自衛隊正面装備等々、防衛力がだんだん落ちてくるというような、そういう状況も起きてきていると思うのですよ。

昨今の国際情勢を考えますと、日本の防衛も、まだまだ強化していただかなければいけない状態にある中、またその反面、こういう地元の方で、何とか何とかという話をすると、なかなか思うように防衛力の強化もできないというような状況も起きております。

私が言いたいのは、そういうことも鑑みて、日本の防衛力が落ちて喜ぶのは誰かといったら、わかると思います。これは大変由々しき問題であると思いますので、こういう基地を持っている我々自治体も、やはりそのところを勘案して、節度を持った要求というか将来をよく考えた考えに基づいて要求をしていくべきだと思います。これは私の意見です。よろしく願いいたします。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） ございませぬね。

質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 次に、その他でほかに何かございますか。ここに書いてあること以外で構いません。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 硫黄島調査特別委員会とはちょっと離れますけれども、前にも村長にお聞きしましたけれども、私、来年の訪島事業がすごく心配です。そして、実施するスタッフからも、いろいろな意見が出ている中で、基本となる船がなかなか集まらないという状態もあるみたいなので、ぜひ村のほうでも、そういう部分の工夫を考えてもらえないかという話を聞いているのですけれども、もう12月ですから、6月という、あと実際6カ月ですけれども、準備期間を入れればそんなにないという中で、村長の思いもそうでしょ

うけれども、訪島事業を、途切らすことはできないと思います。

ぜひとも、この訪島事業に向けて、改めて、村長の中で、来年の6月に向けて、どういう考えがあり、どういう進め方をするのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 今、杉田委員からご指摘されたご心配の向きというのは、直接事務方からも報告ありまして、私も直接お話を伺っております。

それから、昨年言われましたときに、各議会の皆さんも行かれた墓参、行かれた方には見いただきましたが、現地での砂地のところをどうするかという、これはちょっと中・長期的な観点になりますので、まず訪島事業で言いますと、少なくとも最低限のものはやると、それは旧島民の墓参、それから子供たちを連れてということですね。来賓とか村民の一部ということまで、できればそうして従来どおりやりたいのですが、少なくとも最低限、そのことは実施をしたいということでやっておりますので、まず何とか最低限ではない形でいくような方策を練りながら、それがかなわないときには去年と同じような形でも必ず実施をすると、そういうことで今進めております。

○委員長（一木重夫君） ほかがございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

---

#### ◎閉会中の継続調査について

○委員長（一木重夫君） 次に、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の特定事件継続調査事項表の事項を調査するために、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることになりました。

---

#### ◎閉会の宣告

○委員長（一木重夫君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、硫黄島調査特別委員会を閉会します。

お疲れさまでした。

（午前11時30分）